

教育広報

いるま

第44号

平成18年10月

題字：教育長 石田 宣雄
編集：教育広報いるま編集委員会
発行：入間市教育委員会学校教育課
電話 04-2964-1111 (内4145)



友達

東金子小学校 六年

小林 夏美

華厳の滝

戦場ヶ原

湯滝

目の当たりにした自然の力

陽明門の美しさ

どれも心に焼きついた。

一番は夜の友達との語り

とても楽しく忘れられない思い出。

みんなで布団に寝そべって

「明日のお土産何にする？」

「アイスクリームおいしかったね！」

「明日はどこに行くのかな？」

積もる話も山となった。

話に夢中になった。

あっという間に消灯時間。

「おやすみ。」

なんてだろう

全く眠れない。

でも、何となく幸せな気持ち。

だって私のそばに一緒に笑える友達がいるから。

私の友達を大切にしなくちゃ

ガラスの器みたいに。

そんなことを考えていたら

いつの間にか眠った。



茶の都くにいるま — お茶とふれあう —

「香り豊かな緑」のまち、入間市。入間市の地場産業として守り受け継がれてきた「狭山茶」。「香り豊かな緑の狭山茶」は、入間市の郷土のほこりです。

現在この「狭山茶」を知るために、学校をはじめ、さまざまな方面で多くの取組がなされています。

その中から、今回は、学校、博物館、給食センターでの取組をご紹介します。

小学校での取組

茶畑広がる新久小学校

校庭の前に広がる茶畑、青空と緑が広がる校庭で子どもたちは元気に遊んでいます。お茶にまつわる学習も多く、PTAや地域の方の協力を得て、子どもたちはお茶とふれ合っています。

茶畑オリエンテーリング

全校の児童が学校の周りの茶畑でお茶に関するクイズやごみ拾いを行っています。

異学年の児童が、茶畑の間の

ごみ拾いをしながら歩き、ゲームやクイズをします。代表委員がお茶に関するクイズを作成しています。高学年の子が下の学年の子の面倒を見ながら、茶畑の間のごみを拾い、ポイントを目指して歩きます。子どもたちは楽しみながらお茶にふれています。

全校茶摘み

毎年、学校の近くの茶畑を借りて茶摘みをさせていたいています。新久っ子でも茶摘みをしたことのない子が多く、年一回のこの機会は、お茶とふれ合う大切な行事です。



手揉み茶づくり

お茶についての学習

本校では三年生で社会科と総合的な学習の時間に「お茶とふれ合う」学習を行っています。おいしいお茶づくりの苦労や工夫について課題を持って調べ、茶摘み体験をはじめ、茶農家や茶工場の見学もします。また、実際にお茶づくりも体験しています。茶摘み体験で摘んだお茶をその日のうちに家庭科室で蒸し、ホットプレートを使い、温めては手で揉むことを繰り返し、お茶に仕上げ、できたお茶を味わっています。そして、茶業特産研究所の見学なども行い、茶農家の方に来ていただいたりして、課題を解決しています。

手揉み茶づくり

四年生は、地域の茶業組合の方とPTAの協力のもと、手揉み茶づくりに取り組んでいます。お茶の香りがただよう中、手づくりのお茶を作っていきます。ホイロで揉むのは熱く、たいへんな作業ですが、最初は驚いていた子どもたちも最後に

慣れ、茶づくりに取り組んでいきます。別室では、おいしいお茶の入れ方を教わり、味わっています。できたお茶は小袋にパックしていただき、全校児童に配布し、家庭でも味わっています。毎年、茶業組合の方には、春先に摘んだお茶を冷蔵庫に保管していただいたり、当日の機械準備、説明、安全への配慮、仕上げ、袋詰めをしていただいたりと、全てにわたりお世話になっていきます。PTAの方にもホイロの危険防止やパック詰めなどを手伝っていただいています。本校の手揉み茶づくりは、多くの方のご協力の上に成り立っています。

校庭の隅にもお茶の木が植えられています。まだ小さい木ですが、学校でとれた葉で手揉み茶づくりができたと思います。



全校茶摘み

中学校での取組

全校あげての茶摘み

—上藤沢中学校—

入間市南部に位置し、周囲を茶畑に囲まれた上藤沢中学校には、パイパスを挟んで二面の茶畑があります。この茶畑は、農家の方よりお借りし、学校で管理しているものです。本校では、五月の声を聞くと、全校をあげての茶摘みがおこなわれます。最近では、新聞報道もされ、地域の名物行事にもなっています。新芽の若緑色に「茜ダスキに菅の笠」を身につけた「茶娘」も彩りを添えています。

「会社や外で飲むお茶と比較して、ひじょうに美味しいお茶なので毎年このお茶を飲むことを楽しみにしています。(保護者)」という声からもわかるように、この行事は、生徒にとっても、保護者にとっても楽しいひとときとなっているようです。

新茶の香りの中に、「お茶」になるまでには、多くの人の手がかかることを忘れることはできません。多くの仕事は、教職員の作業は無論のこと、保護者や地域ボランティアの方々の手で

賄われています。「香り豊かな緑」のまちを残してください。先人たちの思いとご苦労が偲ばれます。

業後も、お茶をいただくたびに、一所懸命茶葉を摘む皆さんの姿を思い出し……。(保護者)

「地元の産業を肌で感じ、貴重な体験をさせていただきありがとうございます。」(生徒)「卒業していただきます。」(卒

この「茶摘み」体験が、ふるさと人間への関心と愛着を深める機会となっております。願っています。

入間市博物館(アリエット)と学校の連携

入間市博物館は、平成十八年一月に、入館者数百万人を突破。広く市民に親しまれる存在であるとともに、地場産業のお茶を生かした「お茶の博物館」としての評価も定着しています。

ここでは、展示物の公開やお茶に関する様々な事業を行うだけでなく、学校が博物館で行う授業の補助や学芸員が学校に出向いて授業をする、いわゆる「出前授業」なども行い、学校との連携を図っています。具体的には、入間市を中心とした歴史や狭山茶に関する展示物の見学と、それをもとにした調べ学習の補助。また特に小学校では、縄文



火おこし体験

時代の人々の暮らしぶりを味わう火おこし体験。中学校では、伝統的な日本文化にふれる茶席体験を主とした体験型の学習も行い、学校教育の支援を行っています。その他、学校との連携をより密にし、内容を充実させるために、博物館・学校連携事業研究委員会を設置し、博物館の授業に活用するワークシ

狭山茶を生かして

給食センターでの取組

地場産物の導入

現在学校給食では、「地元の農産物は地元で消費しよう」と

トや体験型学習の開発、博物館の機能を活用した授業研究等の取組を行っています。

博物館は、平成六年十一月に開館し、今年度で十二年目を迎えました。その間、社会は大きく変化し、学校に対する要望や、教育の内容も多様になっていきます。このような時だからこそ、博物館と学校との協力が必要不可欠と考えています。



青丘庵での茶席体験

狭山茶を通じての食育

「地産地消」が全国的に推進されています。入間市では、以前より地元の食材として、県内でも生産高一位のお茶を給食に取り入れています。お茶はそのままではなかなか料理に使うことは難しいのですが、茶業協会の協力で狭山茶の葉をパウダー状やミル状にすることにより、様々な献立に使用できるようになりました。

狭山茶を使った献立は、子どもたちに人気があり、五月の新茶季節を中心に、一年を通じて出されています。狭山茶を献立に取り入れたことよって、お茶の効用製法を効果的に指導することができ、子どもたちのお茶への関心高くなりました。人気献立の「山茶あげパン」はそんな子どもたちが考えた献立です。

入間市の名産である狭山茶を子どもたちにより身近に感じてもらえるように、今後もお茶の風を生かした新献立を考えていきいと思っています。

さやま茶あげパン

材料(4コ分)

- ・ツイストパン 4コ
- ・あげ油
- ・うぐいすきなこ 大さじ3
- ・お茶パウダー 小さじ1/2
- ・砂糖 大さじ3
- ・塩 少々

作り方

- ①aを混ぜ合わせる。
- ②パンを油でからっと揚げ①をまぶす。

お茶を使った献立の例

- さやま茶あげパン
- 抹茶白玉
- お茶入り蒸しパン
- お茶入りふりかけ
- 笹かまの茶通揚げ



笑顔いっぱい 夢いっぱい 元気な西武小子

西武小学校長 黒澤 博

「おはようございます。今日も、子どもたちの笑顔あふれる元気なあいさつで、西武小の一日が始まります。西武小は創立百十八周年を迎えた歴史と伝統のある学校です。」

本校の特色ある教育活動の一つに地域のよさを知り、地域から学ぶ「地球タイム（総合的な学習の時間）」があります。

食農教育の推進

例えば、五年生ではテーマの一つに「発見 西武の宝物」地域の伝統に目を向けよう、を掲げ、「野田ばやし」に挑戦しています。地元保存会の皆さんのご指導のもと、楽しみながら体験活動に取り組み、保護者の方を招いて活動成果の発表会も行っています。

また、「おはやしクラ



野田ばやしの発表

西武小子ども祭り

西武小子ども祭りは、子どもたち自らが企画・実施する全校縦割りグループによる夢のある活動です。

- ①実行委員会の開催
- ②縦割り会議（店長選出、お店の案づくり）
- ③店長会議
- ④縦割り活動（お店の方法、内容などの決定と準備作業）などを経

て、当日を迎えます。当日は、各グループ

がそれぞれ出店を工夫し、とてもにぎやかに行われます。地域のお年寄りを招待し、お店の案内をしながら一緒に遊ぶこともありま

す。活動を通して小さい子どもと大きい子の心の交流やグループ内での協力などが、様々な場面で見受けられます。

お年寄りの皆さんをご招待することにより、地域の方々との交流も生まれ、尊敬や思いやりの気持ちも育まれています。

今では、子どもたちが毎年楽しみにしている行事の一つになっています。



西武小子ども祭り

普段の不断ない教育活動

藤沢東小学校長 平井 進

閑静な住宅街、じゅうたんのような畑に囲まれた平坦な土地の中、レンガ色の大きな校舎が開校三十一年目になる本校です。本年度の方針「保護者や地域の人々に信頼される学校づくり」のもと、保護者、地域の方々の協力を得て、全教職員が毎日地道に教育活動に取り組んでいます。

子どもたちは、植える所に花を育てています。また、桜の古木、自然観察園、他の草木等もたくさんあります。

子どもたちは、植え替え、水やり、草取りなどの手入れを通して豊かな心を身につけていきます。

花・花・花



花いっぱいの花だん

畳のある図書室

今年の実績の一つに「読書活動の推進」があります。週に一日朝自習の時に「読書タイム」を設けています。

また、図書室には八畳ほどの畳スペースがあります。子どもたちはお気に入りの本を畳の上に広げます。

さらに「とっぴんばらりんぼうの会」というボランティアの方による読み聞かせも行っています。

本には一冊ごとに異なる世界があります。子どもたちは、読書を

通じて、様々な世界にふれ、様々な感動を自分自身の心の世界を広げていきます。

以上のように本年度は、「教育に関する三つの達成目標」も考慮しつつ、毎日の教育活動を通して「当たり前のことが当たり前にできる子」を育成していくことが何よりも大切だと考えています。



聞き入る子どもたち

本年の努力点

①朝のあいさつ運動を全職員で計画的に行っています。

②朝マラソンの励行に努めています。

③パケツ苗を育てること、茶工場の見学などによる体験活動を多く取り入れています。

以上のように本年度は、「教育に関する三つの達成目標」も考慮しつつ、毎日の教育活動を通して「当たり前のことが当たり前にできる子」を育成していくことが何よりも大切だと考えています。

紹介

ちらです

藤沢中学校

藤沢東小学校

品格の中に調和のとれた活力のある西武中学校

西武中学校長 高山 茂

本校は、西武池袋線
仏子駅を中心とする東
西二・三キロ、南北一
キロの地域を学区とす
る生徒数二八五名の学
校です。学区のほぼ中
央、仏子駅の南側、徒
歩一分の所にあります。

作業学習を重視した 明星学級

本校の学校教育目標
は、「自ら学び 考え
行動する生徒 ①確か
な学力 ②豊かな心
③健康な体」で、清潔
な学校、文武両道の学
校をモットーに感性、
品性を磨き、居心地の
良い学校を目指してい
ます。特色ある活動は、
六月一日の市報で紹介
したように「環境美化
と奉仕の心を育む入間
リパーククリーン大作戦」
「感性を磨き、豊かな心
情を育てる朝読書とパ
ッハザールでの合唱祭」
等です。

本年度は、九名の生
徒がいろいろな作業学
習に取り組んでいます。
農作業グループは、ジ
ヤガイモ、サツマイモ、
なす、にんじん、大根、
かぶなど、いろいろな
野菜の栽培に熱が入り
ます。藍を育てるグル
ープは、藍の種を蒔く
ところから、苗を植え
替え、大きくなった葉
をとり、藍染めに挑戦
しています。また、さ
さ織りグループは布を
裂いて細かい紐をつく
り、織機で織って製品
を作ります。どのグル
ープも一生懸命です。



ジャガイモ畑

全員で創り上げる 体育祭

本校の体育祭は、百
m走などの個人種目も
ありますが、クラス全
員リレーや学年種目な
ど団体種目が多く、学
級や学年のまとまりを
重視したプログラムと
なっています。また、
縦割りの団対抗も同時
に行われていて、まさ
に全員で創り上げる体
育祭といえます。



大縄跳び

三年生を中心にした
団対抗の競技は一年生
から三年生まで協力し
て、力あふれる素晴ら
しい体育祭として西武
中の誇りです。

開校六十周年を迎える歴史ある中学校

藤沢中学校長 今野 信夫

本校は今年、開校六
十周年を迎える歴史あ
る学校です。「健康・勤
勉・敬愛」を校訓に学
校教育目標は、「自ら学
ぶ生徒」(やる気)・
「心豊かな生徒」(思い
やり)・「元気な生徒」
(元気・体力)です。

さわやかな中学生 の育成

毎朝「おはようござ
います」のさわやかな
あいさつが校内に響い
ています。学校朝会や
集会活動では、さわや
かな服装で参加ができ、
「お願いします」・「あ
りがとうございました」
のあいさつで授業が開
始・終了します。本校
では、全教育活動を通
して、知・徳・体のバ
ランスの取れたさわや
かな中学生の育成に努
めています。

地域に開き、地域と 連携する学校



あいさつ運動

学校・家庭・地域が
一体となって生徒の育
成に努めています。本
校では、体育祭などの
学校行事に、地域・保
護者の多くの方が来校
してくださいます。十
月下旬に行われる藤中
祭には、約五百名の
方々に参観いただいで
います。また、地域の
多くの方に指導の援助
を行って頂いています。

本校の図書館では、
図書ボランティアさん
が毎日交代で活動して
います。「いつ行っても
すぐ入れる」と生徒に
喜ばれ、利用人数も増

え、図書館が生徒にと
って「心のオアシス」
になっています。

地域の老人福祉施設
のボランティア訪問は、
本校の特色ある教育活
動の一つです。この活
動は、市内の老人ホー
ム杏樹苑、デイケアセ
ンター「マナ」を七
月・十二月・一月の年
三回訪問しています。
クリスマス会・餅つき
など、生徒たちの「心
の教育」に取り組んで
います。そのほか、「通
学路清掃」や地元行事
の夏まつりで吹奏楽部
が演奏したりして地域
の交流を深めています。
生徒たちは、多くの
人とかかわりながら体
験を積み重ね、自らの
生き方を学び、豊かな
心を育んでいます。



ボランティア訪問

隣接を生かした、小・中学校の連携 金子小学校

より良い教育活動を目指して

金子小学校と金子中学校は、道路をはさんで、隣接しています。この隣接をうまく活用して、小・中の連携を図る教育活動を展開しています。

「小・中の連携」とは、両校双方が、実施して良かったと思うようになければ継続しないとします。

本校は、今年開校百周年を迎えます。今後も、未来を見ずえて小中連携を強めていきます。

金小の講堂で金中の吹奏楽鑑賞
今年六月、音楽朝会時に、本校に中学吹奏楽部員が来校し演奏を聴かせてくれました。曲目は児童にとって親しみのある宮



全児童の前で演奏

崎駿のヒットメロディー等五曲。思わず口ずさむ場面もありました。児童はこの日を毎年、大変楽しみにしています。

中学吹奏楽部員も、出身校での演奏のため、練習にも力が入ったと聞きました。



中3の質問に答える小1

小一と中三の交流会

昨年十一月、本校一年生が金中へ招待され、「さわやか交流会」がありました。これは、金中の総合的な学習の時間の一環で、企画や運営の全てを、中学生が行いました。

拍手で迎えられた一年生は、中学生と手をつないで、ジャン

ケン列車や宝探しなどを楽しみました。

帰るとき、一年生は「ああ楽しかった」と笑顔を見せていました。

異年齢との関係が薄れている現在、中学生にとっては理想のお兄さんお姉さん像はどうあるべきかを、模索した一日だったようです。

中学陸上部が五・六年を指導

昨年十月、地区体育祭へ向けて練習の最中、中学生陸上部員が指導に来てくれました。パトンの渡し方や走り高跳びのこつなどを教えてくれました。

小六と中一の交流会

今年三月、一日入学時に中学進学時の不安を少しでも解消しようと、中学生が、六年生を対象に、中学校説明会をしてくれました。制服ファッションショーや楽しいクラブ紹介の後、親切に質問に答える中学生の姿がありました。

中学生にとっても、先輩としての自覚が生まれるのではないのでしょうか。

今後とも、中学校と充分に連絡を取りながら、効果的な小中連携を進めていきます。

不登校の背景と予防

入間市では平成十五年度から「不登校ゼロ」を目指して、総合的な対策を推進しています。

それらの取組から、不登校の背景とそれを予防するための条件について考えてみました。

一 不登校の背景

【子どもたちは】近年の子どもたちは、将来に対する夢や希望が希薄で、耐性が弱く、社会的に未成熟であるといわれます。

【保護者は】核家族や少子化・地域における人間関係の希薄化が進んでいます。一部では放任や過保護などの問題に加え、育児への不安や自信喪失など家庭の教育力の低下が指摘されています。

【学校では】人間関係や学業不振などの学校生活上の問題、いじめや暴力行為などの人権侵害、怠学や非行問題行動等が指摘され、学校の取組として改善すべき余地もあります。

二 不登校への対応策

このように、背景が異なれば、個々の児童生徒の不登校となる要因も様々です。また、本人にもはつきりとした理由が分からないことも少なくあ

りません。

さらに、遊びや怠学、L・D・ADHDや虐待が要因となる不登校も発生しています。

従って、不登校への対応策は、それぞれ異なっています。

三 不登校予防の条件

しかし、不登校から立ち直っていく子どもたちを見てみると、いくつかの共通した条件があることに気がきます。

① 予兆をとらえる

保護者や教師が、子どものサインを見逃さずに早く気付いています。早期に手を打てば、長期化を防ぐことができ、子どもは、それだけ早く学校に復帰できます。

② 子どもと向き合う

子どもと話し合い、子どもの気持ちに寄り添っています。信頼できる大人（保護者や教師）がいることは、不登校の解消や予防に不可欠です。

③ 教師と保護者が協力する

保護者だけ、教師だけの対策では不十分です。お互いに協力する姿が子どもを安心させ、子どもが学校へ行こうとする意欲を高めます。

学校自慢

扇っ子見守り隊

扇小学校

私たちの扇小の自慢は、いつも笑顔で見送ってくださる「扇っ子見守り隊」の皆さんです。登校している時「おはようございます。行ってらっしゃい。元気だね。」と優しく声をかけてくれます。見守り隊の方々は地域の皆さんです。最近、ゆうかい事件など増えているけど、見守り隊の皆さんのおかげで安心です。下校の時も、交通指導員さんや見守り隊の方々は笑顔です。「さようなら。気をつけてね。」の声を聞くと私たちまで笑顔になります。登下校の仕方やあいさつは、前より上手にできるようになりました。これからも「扇っ子」を見守ってほしいです。

(六年 蟹沢 夏彩)
(六年 小泉 咲希)



学校の木

藤沢小学校

ぼくたちの学校では、学年ごとに一本ずつ育てている学年の木があります。一年生は梅、二年生は夏みかん、三年生はゆすらうめ、四年生はブルーベリーとさくらんぼ、五年生は西洋ミザクラ、六年生はビワです。



ぼくたち六年生は、六月二十一日にびわの収穫をしました。みんなはさみを持って、びわを一個一個ていねいに取りました。木の上の方は取れないので、小鳥のえさにします。そして、みんなですつたびわを食べました。味は、とっても甘酸っぱくておいしく食べました。なかにはまだ完熟していないびわを食べたり、一度に何十個も食べたりする人もいました。

(六年 大関 直人)

宮寺小じまんの給食

宮寺小学校

ぼくたち宮寺小の給食は、とてもおいしいです。いつも四人の調理員さんが朝早くから作ってくれています。だから給食の時間はとても楽しみです。

献立はいろいろあります。その中に手作りカレーパンもあります。とても人気があります。

ぼくたちの学校には、交歓給食があります。クラスで半分ずつが違うクラスに行つて一緒に給食を食べます。その後、そのクラスでレクをします。



二学期からは給食室の工事のため、センターから給食が届けられるそうです。センターの給食も楽しみです。また、宮寺小のホームページには、毎日の給食が写真のついています。ぜひ、見てください。

(六年 橋本 佑介)

ノーチャイムライフ

東金子中学校

東金子中学校では「ノーチャイムライフ」を実施しています。ノーチャイムライフとは、その名の通り、チャイムを鳴らさないで学校生活を送ることです。

学校のような集団生活で大切なことは、時間を守ること。授業開始時刻一分前になると、どの教室からも呼びかけの音が聞こえます。チャイムがならないので、生徒一人一人が時間を気にして行動できるようになりました。

ノーチャイムライフのとり、各学年で「タイム着席」の調査も行っています。結果を見る限りでは、私たちが完璧なノーチャイムライフをしているとは言えません。よりよい学校にするため、努力していきたいと思っています。(三年 山脇 栄里香)



佐渡市との交流学习

上藤沢中学校

私たちの学校では、八月一日〜三日、二泊三日の日程で新潟県佐渡市にある前浜中学校との交流学习会に行ってきました。



佐渡到着後、佐渡市役所両津支所に表敬訪問、人間市の代表としてあいさつをしました。

二日目は、前浜中学校の歓迎会に参加、学校内や、美しい海で交流を深めてきました。夜は、地域の方々から「鬼太鼓」をはじめ、「張り駒」等本格的な伝統芸能を見せていただきました。

佐渡での三日間、お天気にも恵まれ、埼玉県ではできない様々な体験をさせていただきました。佐渡の皆さんに感謝しています。来年は、前浜中学校をお招きする番です。

(三年 田中 千尋)

ふれあいまはなす

楽しい交流を通して

あずま幼稚園

六月十四日、東金子保育所とあずま幼稚園の交流会があずま幼稚園で行われました。双方の年長児が体操やリレーをしたりして、園庭で個々の交流を行いました。この催しは、今年で五年目になります。幼保一元化が話題になっています。今、幼稚園、保育所を問わず、子どもの健全な成長を見守り、共に就学する時に互いが切磋琢磨する上で、良い経験になったと思います。秋には、四歳児の交流も予定しています。



なかよくなったよ。



このような貴重な体験をさらに積み重ね有意義に活用し、子ども同士の絆を深めることに役立てばと思います。

羽化したよ！教室から放蝶 二百五十匹のアゲハチョウ

東金子小学校

東金子小学校は、加治丘陵に立地する学校です。毎年三年生は加治丘陵に探検に出かけ、丘陵に生息する動植物の観察をします。六月から七月は春型アゲハチョウの羽化の季節です。子どもたちは一人一人虫籠にアゲハチョウが産卵したフェネル（セリ科ハーブ）などを入れて育てます。ドキドキ発見の連続の中でふ化から成虫までの様子を観察体験してきました。そして、感動の宝物となった羽化した蝶は、最後に自然へ帰しました。



「やっとチョウになれたね。」

た。今年は約百五十匹近くのナミアゲハ、キアゲハ、アオスジアゲハ、クロアゲハなどを放蝶しました。この学習を通して子どもたちは、自分たちの住む加治丘陵地域に愛着を持ち、自然のすばらしさや命の大切さを体験することができました。

やったぞ総合優勝！

藤沢南小学校

六月のわんぱく相撲入間大会には、八十三人の南っ子が出場しました。南小は全校三百六十一人の小さい学校ですので、およそ四人に一人が出ていることになりました。



ずっしりと重たい貴鷲旗

五月から、毎日お昼休みに練習してきました。短い時間です

が、高学年が行司役になり、本番さながらの取り組みをしました。練習が始まると、友達に誘われたり、先生に勧められたりと、出場者もどんどん増えていきました。

出場しない人も、給食当番を代わってあげたり、大会に応援にかけつけたりしました。今回勝ち取った「貴鷲旗」は、このように練習した成果と学校全体が盛り上がった結果です。やったぞ！！

私たちの地域を美しく！
交差点の荒地を花壇に！！

東町中学校

この活動は「私たちの街を私たちの手できれいにしよう！」という生徒会の呼びかけと東町中学校区青少年健全育成推進会の皆様のバックアップにより実現しました。以前は空き缶やペットボトルなどのゴミが散乱していた東町交差点脇の土地をお借りし、昨年の十一月より花壇づくりを始めました。お借りした土地はゴミばかりでなく大きな石等も多く含んでおり非常に堅い状態でした。しかし有志の生徒たちが多くの時間と労力を

かけ花壇として使用できる状態にまで変えてくれました。生徒たちの手で昨年はパンジー、今年はマリーゴールドとサルビアを移植しました。それらの花々は大きく成長し、交差点を行き交う人々の目を楽しませ、心を和ませてくれています。



今年もきれいに咲きました。

編集後記

運動会・体育祭も終了し、充実した教育活動を展開するよい季節となりました。

今回の教育広報では、「茶の都いるま」を掲載し、郷土のほこりである狭山茶を知るための様々な取組を紹介しました。

なお、今号より白黒印刷の発行となりました。